

ノーベル賞博士

子供らと交流会

6日、大野を訪問

P475-6

エイズウイルス(HIV)

を発見し、昨年のノーベル
生理学・医学賞を受賞した
リュック・モンタニエ博士
が6日、大野町稲富の世界
エイズ研究予防財団(本部
・パリ)の日本事務所(林
幸泰代表)を訪問し、地元
の小中学生らと交流する。

モンタニエ博士は同財団
の理事長を務め、1983
年にエイズの原因がHIV

であることを突き止めた。
来日中、京都市で開かれる
学術会議「科学技術と人類
の未来に関する国際フォー
ラム」(4、5日)に出席
し、8日に離日する。

大野町では、子供たちや
杉山茂町長ら約80人が出迎
え、モンタニエ博士の好き
なショパンのピアノコンサ
ートを開いたり、対談した
りしてノーベル賞受賞を祝
う。

林代表は「ノーベル賞受
賞者と触れ合う機会は少な
い。子供たちのエイズ教育

にも力を入れてもらってい
る。光栄です」と話し、訪
問を心待ちにしている。